



営農NEWS



露地ナス栽培で各種害虫の発生に注意しましょう

本県のナス栽培は、一部に施設を利用した周年栽培もありますが、主体は露地栽培です。

梅雨が明けて、今後、更に気温が上昇してきますと、各種の害虫（アザミウマ類、コナジラミ類、アブラムシ類、ハダニ類、チャノホコリダニ、オオタバコガ、ハスモンヨトウ、ハモグリバエ類など）の発生が増加してきます。

県病虫害防除所の「発生予報 8 月号」によりますと、7 月下旬現在、ハダニ類の発生は平年よりやや少ない状況ですが、8 月の気温が高く日照時間も並か多いと予想され、ハダニ類の発生を助長して平年並になると予測しています。

これらの微小な害虫は、発生を確認することがなかなか難しいですが、見逃して多発生しますと防除が困難になってしまいますので、圃場を丁寧によく観察し、早期発見に努めるとともに、発生初期からの防除を徹底してください。

<早期発見・防除のポイント>

- 1 アザミウマ類は、主に花の内を好んで（ミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマ）寄生したり、葉や果実ガクの裏側を好んで（ミナミキイロアザミウマ）寄生するため、これを早く発見するようにしましょう。遅れると、葉にかすり状の傷ができて激しいと茶褐色に変色して落葉します。果実ではガク部を中心に変色や亀裂を生じ、商品価値を失くしてしまいます。
- 2 コナジラミ類は、葉や株をゆすると、白い羽の微小な虫が飛びだすので発見しやすいです。直接の吸汁害よりも、排泄物によるすす病発生の方が大きな問題となります。
- 3 ハダニ類は、主に葉裏に寄生しますが、葉表から見ても脱色カスリ状に変色します。初期は下葉に寄生しやすいので、これを早く発見するようにしましょう。
- 4 チャノホコリダニは、生長点付近の葉が奇形となる他、葉裏がツヤのある淡黄色に変色して裏側に巻き込みます。果実は、ガクや果梗部分が変色し、果面がサメ肌状になります。虫は 0.2mm 前後なので、ルーペでも観察が困難です。
- 5 オオタバコガは、幼虫が新芽や花を食害し、すぐに果実内へ食入して次々と新しい果実に移動します。さらに茎の中にも潜入するので、被害が大きくなります。ハスモンヨトウは、主に葉を暴食しますが、果実は加害しても潜入することは稀です。
- 6 ハモグリバエ類は、幼虫が葉肉内を食入する被害（いわゆる「絵かき虫」）で、ナスでは葉が黄化して落葉しやすくなるので、早めの防除に努めましょう。

表 1 ナス定植後の生育期における各種害虫の主な防除薬剤（平成 26 年 7 月 29 日現在）

薬剤名	アザミウマ類	コナジラミ類	アブラムシ類	ハダニ類	チャノホコリダニ	オオタバコガ	ハスモンヨトウ	ハモグリバエ類
スタークル顆粒水溶剤 ※	○	○	○					
ベストガード水溶剤 ※	○ミナミキイロ	○	○					
ウララDF	○ミカンキイロ	○	○					
コルト顆粒水和剤		○	○					
アフーム乳剤	○			○	○	○	○	○マメ
コテツフロアブル	○ミカン・ミナミキイロ			○	○	○	○	
ディアナSC	○	○				○	○	○
ハチハチフロアブル	○	○	○		○			○
モベントフロアブル	○	○	○	○	○			
コロマイト乳剤		○		○	○			○
スターマイトフロアブル				○	○			
ダニサラバフロアブル				○				
アニキ乳剤		○			○	○	○	○
フェニックス顆粒水和剤						○	○	
プレオフロアブル	○ミナミキイロ					○	○	○
プレバソソフロアブル5						○	○	○
ファルコンフロアブル						○	○	
アタブロン乳剤	○ミナミキイロ					○	○	
スタークル粒剤 ※		○	○					
オルトラン粒剤	○	○オンシツ	○					

注 1) 表中のミカンキイロやミナミキイロは（アザミウマ）を、オンシツは（コナジラミ）を、マメは（ハモグリバエ）を略して表示しました。

2) 薬剤名の※印は、ネオニコチノイド剤です。同一系統の連続使用は、避けてください。

農薬を使用する際は、ラベルに記載の登録内容、使用法、注意事項などを確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040